

## 七夕のねがい

にしだ  
西田 侑弥

「おかあさんとおなかの赤ちゃんがぶじてすように。」

今年の七夕のおねがいにこう書きました。

今、おかあさんのおなかの中には赤ちゃんがいます。おなかも、どんどん大きくなって大へんそうです。おとうさんから、「今、おかあさんのおなかの中には、赤ちゃんがいるんだよ。だから、これから、おかあさんのお手つだいをしたすけてあげてね。」

と言われました。ほくは、うれしくて

「やったあ。ほくのゆめがかなったあ。おかあさん、本とう。」と聞くと、

「本とうだよ。」

と、しゃしんを見せてくれました。ほくは「これなに。」と思

いました。

「赤ちゃんは、これだよ。」と教えてくれました。ふえていくしゃしんを見るのがたのしみになりました。

ところが、おかあさんはどんどんぐあいが変わるようになっていきました。七夕の日が近くなっても、かざりつけをしていないので、

「今年はできないんだ。」と思っているとあさ、おとうさんがささをとってきてくれました。かざりをつくって夕方みんなつけました。学校のたんざくには「おかあさんと赤ちゃん

がぶじてすように」と書きました。おかあさんが、

「赤ちゃんをうむむというのは、とても大へんなことで、おなかの中でしんでしまうこともあるし、おかあさんがしんでしまいうこともあるの。みんなのきょうりよくがないと、おかあさん一人では、うめないんだよ。」

と言ったのをおぼえていたので、二人とも元気でいてほしいと思いました。ほくの前に、おなかの中でしんでしまった子がいると聞いたことがあって、

「今、おなかの中にいるのは、そのときの子だよ。」と、おかあさんに言うと、

「そうだね。じゃあ、おかあさんも、がんばらなきゃ。」

とにこにこしていました。そして、ほくが、おなかにいたとき

のしゃしんを見せてくれました。

「小さっ。でも、すぐ大きくなるね。太ったくまみたいに。」

と言うと、おかあさんは、わらっていました。しゃしんの赤ちゃんがどんどん人の形になっていくのを見て、ほくのときと同じように大きくなって生まれてくるんだと思ったら、た

のしみの気もちをどびこえて、なみだが出そうでした。

生まれたら、だっこやおんぶもしたいし、手をつないで歩きたいです。今、ほくは、せんとくものをたたむお手つだいをしています。

おかあさんがすこしでも休めるようにできることをふやして、かぞくみんなで元気に生まれてくるのを待ちます。